

M キャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」(第1回～第3回)

1. 事業の概要

○事業の趣旨

むろと廃校水族館に宿泊し、研究者によるレクチャーや太平洋の定置網における体験等とおして、海洋生物の生態や漁業等に興味関心を持つとともに室戸市や地球環境の素晴らしさに触れる。

○事業期間

第1回 2024年8月6日(火)～8月7日(水)

第2回 2024年8月7日(水)～8月8日(木)

第3回 2024年8月29日(木)～8月30日(金) 台風の影響により中止

○参加者(高知県内外の小学4～6年生)

第1回 50名

第2回 47名

第3回 台風の影響により中止

○活動日程

	1日目		2日目
12:30	高知方面送迎バス出発 (はりまや橋観光BT)	5:30	起床
13:30	徳島方面送迎バス出発 (道の駅日和佐)	6:00	寢床撤収
15:15	水族館到着	7:20	大敷網水揚げ見学
15:30	開講式	8:00	朝食(おにぎり)
15:50	サメいし作り・サメいし交換	9:30	プールで魚と泳ごう!
17:00	水族館見学	11:30	ウミガメの放流
17:30	夕食(むろと特撰弁当)	12:15	昼食(朝どれ海鮮弁当)
19:00	夜の水族館見学	13:00	閉講式
20:45	きもだめし	14:30	送迎バス水族館出発
21:00	星空観察	15:30	徳島方面送迎バス到着
22:00	【曇り・雨】プラネタリウム		(道の駅日和佐)
	寝床作り(寝袋)		高知方面送迎バス到着
	シャワー浴		(はりまや橋観光BT)
	消灯・就寝		

2. 事業の様子

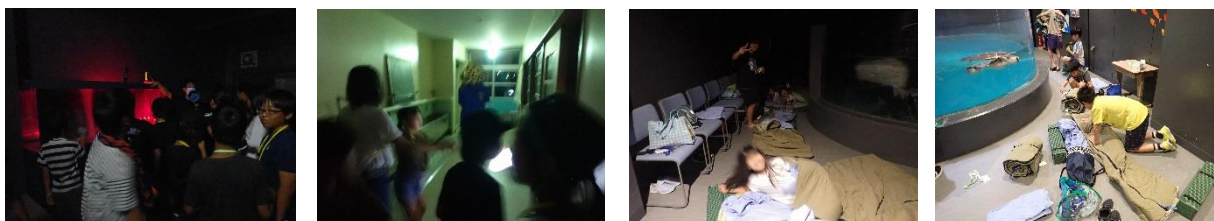
<1日目>

「サメいし作り」では、サメの歯を張り付けた名刺を作りました。「サメいし交換」では、むろと廃校水族館館長より名刺は初めて会った人に自分を知ってもらう為のツールであり、印象に残るための工夫が大事で「サメいし」は相手にインパクトを与えるととても有効なツールであることを教わりました。続いて自分で作った「サメいし」を使って参加者同士で「サメいし交換」を行いました。

た。初めはお互いに緊張した様子が見られたものの、徐々に楽しくなり館長や自然の家所長と名刺交換をする子供たちも現れるなど、楽しく「サメいし交換」を行うことができました。



夕食後の「夜の水族館見学」では、カメや魚たちの昼間とは違う夜の様子を知ることができました。「きもだめし」は、夜の校舎独特の雰囲気を経験しました。就寝もこの事業ならではの楽しい体験の一つです。水槽の周りに寝袋を敷き、カメやエイのすぐそばで寝ることができました。



< 2日目 >

朝早く起床し、水族館近くの椎名漁港に大敷網の水揚げ見学に出かけ室戸の海で獲れる魚について学びました。朝食後の「プールで魚と泳ごう！」では、ライフジャケットを着用し、ブリやシュモクザメが展示されている屋外プールで一緒に泳いだり水中の様子を夢中になって観察するなど水遊びを満喫しました。「ウミガメの放流」では、ウミガメの計測をした後、近くの海岸で放流を行いました。取り付けたタグによって、世界中のどこで発見されても、この日室戸で放流されたウミガメだと分かるようになっていることを知りました。



3. 参加者の声

- ・楽しい企画ばかりだった。 ・名刺で色々な人と友達になれる。
- ・魚の解説はとても勉強になった。 ・室戸で獲れる魚の種類を知れた。
- ・もっと魚のことを知りたくなった。 ・魚と寝られてとても嬉しかった。
- ・本当に楽しくてまた参加したい。

4. 成果と課題

○ 成果

募集定員30名を大幅に超えるに222人の応募があり、50人×3回開催で150人に対応することができた。また、過去20人程度で実施してきたが、最大50人で実施できることが分かった。むろと廃校水族館と自然の家がコラボすることで、通常の登校（水族館利用）では経験できない特別な体験をより多くの子供たちに提供することができた。「プールで魚と泳ごう」は、今年度初めての試みということもあってか話題を呼び、テレビや新聞にも取り上げられたことで、本事業をより多くの人に知ってもらうことができた。

○ 課題

夏休みに3回開催が限界か。または、連続開催（3日間で2回開催）を2回行い、合計4回開催することも今後検討する。その場合は、他事業や水族館との調整が必要である。

会場の水族館の教室と水槽周りでの就寝人数は、50人が限界。通路の確保や日程にゆとりを持たせることを考えるともう少し少ない方が好ましいが、水族館側はOKとの判断。

落選者と中止になった3回目の参加者に対しては、冬休み期間に同様の事業を計画する方向で検討する。

弁当のサイズが大きすぎるので、サイズダウンの依頼をするとよい。また、プログラムの内容等を調整し、最低でも45分は食べる時間を確保したい。

入浴（シャワー浴）に時間がかかった。星空観察の割愛または、就寝時刻22時を22時30分に変更するなど時間の調整をし、入浴時間の調整を検討したい。

M キャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」(第4回・第5回)

1. 事業の概要

○事業の趣旨

むろと廃校水族館に宿泊し、研究者によるレクチャーや太平洋の定置網における体験等とおして、海洋生物の生態や漁業等に興味関心を持つとともに室戸市や地球環境の素晴らしさに触れる。

○事業期間

第4回目 2025年1月5日（日）～1月6日（月）

第5回目 2025年1月11日（土）～1月12日（日）

○参加者（高知県内外の小学4～6年生）

第4回目 16名

第5回目 22名

○活動日程

	1日目		2日目
12:30	送迎バス(高知方面)出発	5:30	起床・身支度
13:30	送迎バス(徳島方面)出発	6:00	大敷網水揚げ見学(漁港)
15:15	送迎バス むろと廃校水族館 到着	7:00	朝食
15:30	開講式	8:00	飼育員体験
15:50	サメいし作り・サメいし交換会	9:30	サメの解剖をしてみよう
17:00	水族館見学	11:30	昼食(朝どれ海鮮弁当)
17:45	夕食(むろと特撰弁当)	12:30	閉講式
18:30	イカスミで書き初めをしよう	13:00	むろと廃校水族館 出発
20:00	夜の水族館見学/シャワー浴	14:30	送迎バス(徳島方面)到着
21:00	寝床作り	15:30	送迎バス(高知方面)到着
22:00	水族館でお泊り(寝袋)		

2. 事業の様子

<1日目>

開講式の後、「さめいし作り」からプログラムは始まった。シュモクザメの歯を1つ選び名刺に貼り付け、一人一人自分だけの名刺を作り上げた。作成後は参加者同士での「さめいし交換会」を行った。自分の名前や通っている小学校などについて情報交換を行いながら活動する中で、緊張感もほぐれ和気あいあいとした雰囲気へと変わっていった。



夕食にて「むろと特撰弁当」を食べた後、「イカスミで書初めをしよう」を行った。飼育員の方からイカの体の構造や炭袋について実際に解剖しながらのレクチャーを受け、イカスミを使って書初めをした。「イカスミってこんなに黒いんだ。」「本当の墨汁みたいに書けるんだね。」というような驚きの声もあり、子供たちにとっては貴重な体験となった。



1日目最後のプログラムは、「夜の水族館見学」を行った。それぞれの生き物の習性や特徴について非常に細やかなレクチャーがあり、明るい時間帯に見た生き物たちの様子との違いに子供たちは興味津々であった。「こんなに生き物のことが知れてうれしい。」「飼育員の方みたいに生き物に詳しくなりたい。」などの感想が聞こえた。活動後はシャワー浴と寝床準備を行った後、就寝し事業1日目は終了となった。水槽の近くに寝袋を敷いて寝ることができ、非常に嬉しい様子であった。

<2日目>

事業2日目は6時30分に起床後、着替え・片付け・朝食を済ませ、むろと廃校水族館近くの椎名漁港にて「大敷網水揚げ見学」を行った。漁師の皆さんが作業している様子や水族館では見られなかった生き物について詳しく知ることができた。見学後は水族館に戻り、記念撮影を行った。



「飼育員体験」では、水槽の清掃とカメラへのえさやりの体験を行った。参加者はそれぞれの体験を楽しむとともに、「生き物を大切に育てるにはたくさんのことをしないとイケないんだ。」「飼育員さんはこういう大変なことをいつも頑張っているんだ。」というように生き物を管理することの大変さや飼育員の方々の日々の作業や生き物を大切にしている思いなどに理解を深めていた。



続いて、最後のプログラムである「サメの解剖をしてみよう」を行った。まず始めにパワーポイントを用いたサメの体の構造についてのレクチャーを受けた後に解剖をした。一部の子を除き、生き物を捌いたり解剖したりすることが初めての参加者が多く、血やサメ特有のアンモニア臭等に慣れず、数名離脱する場面もあったが、普段なかなかできない貴重な体験である「サメの解剖」をみんなで協力しながら行うことができた。参加者からは、「初めてこんな体験ができてよかった。」「ふだんお父さんが捌いている魚たちとは体の中も大きさも全然違うことがわかったし、できてよかった。」などの声が聞こえた。活動後はアンケート記入、昼食、閉講式を行い、事業は終了した。

3. 参加者の声

- ・魚たちの生態系を守りたいと思うようになりました。
- ・海の生き物の生活がよくわかったし楽しかったので、また参加したいです。
- ・サメの体の構造や飼育員さんのお仕事についてよく知れたので良かったです。
- ・新しい友達ができたり、魚の普段見ることができない姿を見ることができて、とても楽しかった。サメの解剖がとてもよかったのでまたやってほしい。
- ・またイベントに参加したいし、むろと廃校水族館にもまた来たいと思いました。
- ・ひとつひとつのプログラムがとても楽しかったし、いい経験になった。
- ・魚のことがよく知れたし、普段できないことができてとてもうれしかった。魚のことがもっと好きになりました。

4. 成果と課題

○成果

- ・夏休みに実施した M キャンプ「むろと廃校水族館に泊まろう！」の落選者や台風の影響により中止となった参加者の参加機会をつくることができた。
- ・イカスミの書初めやサメの解剖など、冬にしかできない水族館ならではの特別な経験を参加者に提供することができた。

○課題

- ・サメの解剖を行った際に、サメ特有のアンモニア臭により気分を悪くする参加者が数名いた。最終的に全員で活動することはできたが、楽しみきれなかった部分もあると思う。そのため、次回実施の機会があった際には、臭いを防ぐことのできるマスクの用意や、換気のさらなる徹底等を行うなどして、より多くの参加者がより楽しく体験できるようにしていきたい。